

編集後記

今、大学教育に関するキーワードとして、「アクティブラーニング、授業外学修時間、単位の実質化、ポートフォリオ、グローバル化、IR」などがあげられます。このような中、今年度6月には、「大学教育学会第37回大会」が本学で開催されました。この大会の統一テーマは「ところで学生は本当に育っているだろうか」であり、さまざまな改革の中、今一度、大学教育のあり方を再考しようというものとなっています。研究発表の多くは、冒頭のキーワードを含むもので、各大学の学生への教育に対し、さまざまな事例紹介がなされました。

一方、新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について(平成26年12月22日中央教育審議会答申)をふまえ、「高大接続改革実行プラン」が文部科学省により策定されました(平成27年1月16日文部科学大臣決定)。今後は従来のセンター試験が廃止され、大学の入学者選抜方法も大幅に変わります。

これにより、今後は高校以下の教育改革の進展により能動的学習に習熟した生徒が大学に入学することも予想されます。大学教育もこれまで以上に実質的な教育内容・方法の確立が求められることでしょう。

本センター紀要も今回、第7号を発刊することができました。今後、ディプロマポリシー・カリキュラムポリシー・アドミッションポリシーの策定と公表が法令義務となることも検討されていること、本学ではH29年度よりクォーター制も導入されることなど、大学教育やその改善についての教育研究が重要となっていきます。

今回、従来の号より投稿件数が少ないものとなりましたが、本紀要が教育改革や教育改善の参考資料となりますことを願って編集後記とさせていただきます。

平成28(2016)年3月

編集委員を代表して 若菜 啓孝